



創刊号
ほおづえ会

国立石川工業高等専門学校建築学科同窓会

■ ほおづえ会（建築学科同窓会）設立を迎えて ■

建築学科は、創立25周年となろうとしており、新しい節目となる時期を迎えました。高専を取り巻く環境においても新しい時代に対応すべく一層の結束が必要となってきました。そして、いま建築学科同窓会「ほおづえ会」が設立されました。

「ほおづえ会」会誌発刊によせて

ほおづえ会会長 野手 有二

青春

青春とは人生のある期間を言うのではなく、
心の様相を言うのだ。

優れた想像力、逞しき意志、炎ゆる情熱、怯懦を
却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、
こういう様相を青春というのだ。

年を重ねただけで人は老いない。

理想を失うときに初めて老いがくる。

歳月は皮膚のしわを増すが、情熱を失う時に
精神はしぼむ。

サミュエル・ウルマン「青春」より

先般、会員数723名、2024年には約2000名の規模となる「ほおづえ会」のネットワークが更なる船出をしました。同じ学校の門を出たとはいえ年代も違えば職種も違う、おのずと考え方も価値観も違う。しかしそれぞれの個性溢れる価値観だからこそ集う意義が大事であると思っています。

人によってはあの果敢な5年間を津幡の山の上で過ごしたという仲間意識、新たな情報のやり取りの中から自分の仕事に生かしたい、あいつは今どこで何やってんだろう時には会って酒でも、老婆心ながら是非これだけは現役の学生さんに伝えたい、年代を越えた幅広い交流をしてみたい、この会でいずれ事を興してみたい……。

いろいろな会員の皆さんの要求に応える受け皿がこの会の使命であると考えています。「青春」の詩はまさにこの会の根底に流れるメッセージだと思います。小さな負担、大きな見返り、そして何よりも楽しい「ほおづえ会」を合い言葉に鋭意努力していきたいと思っています。会員の皆様のご理解、ご協力、ご支援、貴重なお意見ご提案を心よりお願いいたします。最後に会設立に向けて多大なご尽力をいただいた横山学校長、米沢同窓会会長をはじめとする諸先輩、設立発起人会の諸兄にあらためて感謝の意を表します。



同窓会結成を祝して

建築学科主任 伴 俊明

建築学科同窓会の結成を心から御祝い致します。この目的に向かい、設立発起人会を始め、多くの卒業生諸君の労を惜しまぬ努力の結実がここに実ったことは、感動的でした。この構想が、即ち既存に基づかないものをとの発想で出発して、3年近くが立ちましようか。原則的には勿論会員相互の親睦を旨とすべきですが、単にそれだけに終わりたくはなかった点に難しさがありました。はじめは夢のようなものを、より具体的に構築してきた実行力には敬服の一語です。種々の計画が立案されているようです。



そういう意味で、在校生を念頭に置いた今回の計画は、画期的であるとともに、両者の関係をより緊密なものとして発展させていくことになるでしょう。

今私達は、約800名の卒業生を送りだしました。一人一人の記憶の摺りを探れば、赤面することやほくそえむことなど数々の思い出が浮かぶことでしょう。年数を経るに従って、若き日一つの空間を、また時間を共有してきた意味があらためて大きな意味を持ち始めてきます。本当にこの会が、幸いにも建築に関係している人、故あって異なった道を歩んだ人も一緒になって、平素一番大切にまたは重要に考えている事を談話の中で、また楽しい語らいの中で表現したり聞きとったりする絶好の機会として捉えていってほしいものです。

内的にもまた外的にも生きたものとして活動していくためにも、現在の場を大事に育てていくとともに、各人のより一層の精進と健康を祈ってやみません。同窓会がより豊かに成長していきますようにそして一人でも多くの諸君が、何らかの機会を通して参集され、旧交を暖めていっていただきたいと思ひます。

石川高専同窓会会長の言葉

石川高専同窓会会長 米沢 明孝

石川高専建築学科同窓会設立に当たり、一言ご挨拶申し上げます。石川高専同窓会も25回の卒業生を迎え3000人余りとなり、交流活動をさらに進めなければと思っているところであります。

一昨年、土木工学科の同窓会である「専土会」が発会したのに続き今回みなさまの建築学科同窓会の設立を迎えますことは、私共の大きな喜びであり、皆様の活動に敬意を表し、今後のご活躍を心からお祈り申し上げます。

これまでの同窓会活動は、名簿の作成と総会の開催ぐらいでしたが、今後は学校行事にも大いに協賛したいと思っております。このような活動を盛んにして、会員相互は勿論、先生方や在校生との親睦および技術交流を深めたいと考えております。来年には、石川高専開校30周年を迎えますが、その歴史に負けぬような同窓会にしなければと思っております。

皆様の益々のご支援のお願いと建築学科同窓会のご発展をお祈り申し上げます。

■ ほおづえ会設立総会報告 ■

さる9月23日(秋分の日)に同窓会設立総会およびパーティがホリディ・イン金沢においておこなわれましたので報告いたします。

16時より、山内氏(4期)の司会で設立総会が始まり、設立総会の出席者は、169名でした。まず物故会員への黙祷をおこないました。物故会員は下記の9名の方々です。

教官	田上英二	松川鉄朗	
会員	毛利美弥子(4期)	表文幸(5期)	山岡隆夫(7期)
	吉田博保(7期)	小松勝則(8期)	助田樹市(9期)
	高田昌之(17期)		

続いて、設立発起人會会長の野手氏(1期)が挨拶を行い、議長には鮎田氏(1期)が選出され議事進行をおこない、下記の5件について議事が承認されました。

(1) 規約案承認

事務局本田氏(3期)規約案を朗読し承認。

(2) 役員選出

事務局本田氏(3期)が役員候補者を朗読し野手氏(1期)を会長に選出、その他役員につきましては会長より指名。

(3) 予算案承認

事務局本田氏(3期)より予算案を説明し承認。

(4) 事業計画案承認

事業委員長越野氏(9期)より各委員会(事業・教育・広報)の事業計画を説明し承認。

(5) 愛称の決定

総会参加者の挙手により下記の通り「ほおづえ会」に決定いたしました。

1. ほおづえ会	74名	
2. いしづえの会	24名	
3. ひうち会	11名	
4. 寄せ棟会	7名	
	計116名	(総会出席者169名)

以上をもちまして設立総会は終了いたしました。



16時30分より宮川氏（2期）の司会で座談会（パネルトーク）がおこなわれました。座談会に入る前に、来賓祝辞といたしまして石川高専横山泰男学校長にお言葉をいただきました。さて、座談会ですがパネラーは、宮川浩志氏（2期）、鮫田猛氏（1期）、山口氏（1期）および山本進一氏（2期）の4名の方々です。当時の学校の様子、就職の様子など、また、社会に出てからの20年あまりの移り変わりや仕事に対する考え方など、いろいろな話題に50分の持ち時間もあっという間に過ぎてしまいました。

講評といたしまして、建築学科伴俊明主任教授よりまとめと今後の同窓会に対するお言葉をいただきました。

17時30分より金子氏（2期）の司会で記念パーティがおこなわれました。まず、ほおづえ会会長になられた野手氏（1期）より挨拶があり、つづきまして櫻井喜文名誉教授より祝辞をいただきました。建築法規にひっかけたジョークで会場をどっと沸かせてくれました。

天野図書館長により乾杯の音頭がとられ、ここからは、歓談にはいります。何年かぶりにあう人も多く昔の話に花が咲いていたようです。

宴も中頃になったころアトラクションとして越野氏（9期）の司会により、じゃんけんコインゲームがおこなわれ、なかなかの白熱した盛り上がりを見せてくれました。なお、優勝者は、西川省治君（14期）でした。

森元教授に、祝辞をいただき、最後に、櫛田名誉教授による万歳三唱で締めくくりとなりました。

パーティ終了後は、各期のクラス会へと流れていったようです。



乾杯の音頭をとる
天野図書館長



櫛田名誉教授
万歳三唱の前に語る



盛り上がるコインゲーム
(準決勝)

歴代の主任の先生方が一堂に顔を揃えたのはのは初めてではないかと思えます。

みなさん元気で当日は会場を沸かせてくれました。

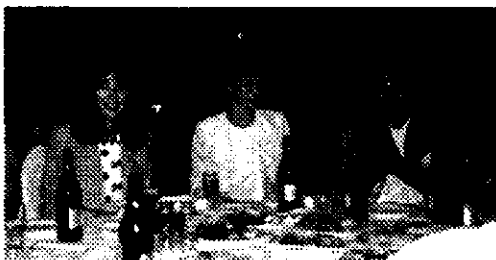
左より、
 櫻井喜文 名誉教授
 榎田 清 名誉教授
 森 松彦 元教授
 天野正治 図書館長



伴主任教授



左から森 元教授と横山学校長



盛り上がるパーティ会場

■ パネルトークングを終えて ■

9月23日、同窓会設立総会后、パネルトークングがおこなわれました。

1期の鮎田氏、山口氏、2期の山本氏にパネラーをお願いし、私が進行役を勤めさせていただきました。

ディスカッションでは、まず卒業後20年近くを得手経て、現在に至るまでを振り返り、それぞれの方々に、これまでの思いを話していただき、その後、これまでの20年を基に、今後どのように考えているかを、若い後輩達への助言を含めて話してもらいました。

1、2期が卒業した昭和50、51年はオイルショック後の不況時で、求人数も少なく、当時の主任教官の櫻井先生や、故田上先生にいろいろとお骨折りいただき、ようやく就職先が決まるような状況でした。

そのような不況下での就職だったためなのか卒業時に就職した勤務先に現在まで勤務している人は少なく、逆に転職や独立が多く、まさに2期にあっては、個人事務所として独立した人が9人と、他の期に比べて極端に多いのも就職時の社会情勢によるところがおおいのかも知れません。

独立や職場が変わることを考えるときは、やはり何らかの目的や希望の様なものがあるわけで、現状からの脱却と新たな自己啓発をはかることを目標として行動を起こすようです。

ここ数年もバブル崩壊時の不況の影響で、自分の希望の就職が困難な状況であったり、またバブル全盛期に就職し大きなバブルに包まれていたのが崩壊し、状況の変化を迎えることもあるのではないのでしょうか。そのようなときに同窓会の縦のつながりを利用し、先輩諸氏の意見を聞けるような同窓会になればよいのではないのでしょうか。

最後に、事前の打ち合わせが不十分のうえ、当日になって一部話しの内容を変更したりで、パネラーの方々にはいろいろとご迷惑をおかけしたことをお詫びし、拙い進行役を支えてくださったことを感謝します。

2期 宮川 浩志



1号議案 石川工業高等専門学校建築学科同窓会会則

第1章 総則

第1条 本会は、石川工業高等専門学校建築学科同窓会と称する。

第2条 本会は、会員相互の親睦を図り、石川工業高等専門学校建築学科の発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う、

1. 会員相互及び母校との連絡・親睦。
2. 会員名簿及び会報の発行。
3. 講習会・講演会・展示会・調査研究など。
4. その他本会の目的を達成するために必要な事業。

第4条 本会は、本部を石川工業高等専門学校建築学科内に置く。必要に応じ学校外に事務局を設置できる。また必要に応じ支部を置くことができる。

第2章 会員

第5条 本会は次の会員をもって構成する。

1. 正会員 : 石川工業高等専門学校建築学科の卒業生及び同校に在学したもので役員会の承認を受けたもの。
2. 準会員 : 石川工業高等専門学校建築学科に在学中の者。
3. 特別会員 : 石川工業高等専門学校建築学科の現教官、旧教官及び 本会の推薦を受けた事務職員ならびに本会支援者。

第3章 役員

第6条 本会に次の役員を置く。

1. 会長 1名
2. 副会長 若干名
3. 事務局長 1名
4. 会計 1名
5. 常任幹事 若干名
6. 幹事 若干名
7. 監査 2名
8. 顧問 若干名

第7条 本会の役員は、会員より次のように選出する。

1. 会長・副会長・監査は正会員の中から総会において互選する。
2. 事務局長・会計・常任幹事は会長が委嘱する。
3. 幹事は卒業年度毎に選出する。
4. 顧問は役員会の推薦により会長が委嘱する。

第8条 本会の役員の任務は次の通りとする。

1. 会長は本会を代表し、会務を総括する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はその会務を代行する。
3. 事務局長は会務に係わる事務を総括する。
4. 会計は本会の会計を担当する。
5. 常任幹事は会務を分掌する。

- 6.幹事は役員会において評議する。又同期生の移動等について調査報告する。
- 7.監査は事業及び会計の監査をする。
- 8.顧問は会長の諮問に応じて助言を行う。

第9条 役員任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

第4章 総会

第10条 本会は、1年に1回定例総会を開く。必要に応じて臨時総会を会長が開くことができる。

第11条 次の事項は、総会に報告あるいは審議しなければならない。

- 1.会則の改正
- 2.事業計画
- 3.予算及び決算
- 4.会長・副会長・監査の選出
- 5.その他会務に関する重要事項

第12条 議事の審議決定には、出席会員の過半数の同意を必要とする。

第5章 役員会

第13条 役員会は役員を以て組織し、総会に提出する議案の作成、議会の決議、その他本会運営のすべての必要事項を協議し処理する。

第14条 役員会は次により会長が召集する。

- 1.会長が必要と認めるとき。
- 2.役員会構成員の3分の1以上の要求があったとき。

第15条 役員会の議長は会長がこれにあたる。

第16条 議事の審議決定には、役員会構成員の過半数の同意を必要とする。

第6章 委員会

第17条 本会には、必要に応じて委員会を設置することができる。

第18条 委員会の設置・活動は、役員会で審議し、総会へ報告を行うものとする。

第7章 会計

第19条 本会の会計は、入会金・会費・寄付金その他雑収入をもってこれにあてる。

第20条 正会員は年会費として3,000円を納入するものとする。

第21条 準会員は年会費として1,000円を納入するものとする。

第22条 特別会員については別途定めるものとする。

第23条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第8章 付則

第24条 この会の運営に必要な事項は細則によって定める。

第25条 この会則は平成6年9月23日より施行する。

■ 2号議案 平成6年度 役員名簿 ■

会長	野手 有二 (1期)	幹事 1期	中川 常雄・米口 孝志
副会長	宮川 浩志 (2期)	2期	金子 哲也・藤阪 邦彦
	長村 寛行 (4期)	3期	北川 祥一・山本 洋一
事務局長	本田 昌義 (3期)	4期	中田 良一・西村 優
会計	石田 和彦 (10期)	5期	松本 勝・山田 重平
常任幹事	今村 哲 (2期) 支部組織編成担当	6期	中沢 宏之・中嶋 祐
	谷保 学 (3期)	7期	階戸 精一・竹田 勉・松浦 弥
	山内 隆 (4期)	8期	高井 洋・長田 幸則・野口 満
	広田 雅之 (5期)	9期	小船井洋和・北島 秀久
	佐々木 剛 (6期)	10期	英 和人・戸田 雅己
	三谷 創 (7期) 広報委員会担当	11期	中島 力・山下 雅之
	水上 勝之 (8期) 教育委員会担当	12期	岡田 進・小幡 朋克
	越野 明 (9期) 事業委員会担当	13期	中川 啓一・西 智明
監査	立野 雅幸 (1期)	14期	家山 真・戸水 雅之・野村 健一
	長村 峰行 (5期)	15期	秋田奈留美・伊藤 武宏
顧問	伴 俊明 (石川高専建築学科主任)	16期	川崎 吉造・目代 次郎・山岸 学
		17期	田中 宏昌・牧野 具美
		18期	畦地 利明・小幡 祥史
		19期	澤田 直子・村上 亜紀
		20期	佐々木勝博・橋本 祥平

○ 支部組織について

支部組織については、次年度通常総会に設立できるよう、次の各氏が、各地区担当者として設立準備を行う予定です。(○印は各地区責任者)

東日本支部 (仮称) 関東・東北・北海道地区

○伊藤 信一郎 (2期) ・寺倉 英樹 (3期) ・中田 良一 (4期) ・青木 正二 (5期)
竹田 勉 (7期) ・野口 満 (8期) ・斉藤 禎美 (9期) ・山下 雅之 (11期)

東海支部 (仮称) 静岡・愛知・岐阜・三重地区

○田端 聡 (6期) ・中嶋 悟 (10期) ・家山 真 (14期)

西日本支部 (仮称) 近畿・中国・四国・九州地区

○隅田 忠志 (3期) ・中山 裕之 (6期) ・嶋 靖徳 (11期)

■ 3号議案 平成6年度収支予算案 ■

<収入の部>

会費（正会員）	3,000×697=	2,091,000
会費（準会員）	1,000×211=	211,000
	合計	2,302,000

<支出の部>

総会費		200,000
印刷費（名簿・会報）		500,000
通信費		400,000
事業費（3委員会）		600,000
事務費		200,000
支部設立準備費（東日本・東海・西日本）		300,000
積立金		102,000
	合計	2,302,000

■ 4号議案 委員会からの事業報告 ■

○ 事業委員会

本会員相互の親睦に重点を置いた交流、特にタテの関係を今以上に結び付けられるような交流を目的とし、本会全体の調和、発展の役割を担うものです。事業内容は建築に多少ふれながら、各位どうしの親睦を目的として進めていくため、下記の3点を開催したいと思います。

1. 「パソコン交流」

設立総会ではCAD勉強会と題しておりましたが、皆様のアンケートの集計をもとに、将来仕事上だけでなく、色々としたことに役立つ道具となりうるパソコンについて慣れ親しんでいただけるような交流の場を作り、パソコンのみでなく会員相互の日頃の親睦に役立ちたいと思います。

2. 「見学会」

もの、建物、都市および地域を直接体験し、各分野から観た意見交流の場をつくり、会員の視野の拡大に役立ちたいと思います。

3. 「親睦会」

本会員の親睦のため、建築の枠を取り外した事業として開催を計画したいと思います。つきましては、各会員も日本中の各地域に在住しておられますので、各支部の連携をはかりながら事業化していきたいと思います。

事業委員会 委員長 9期 越野 明

委員長	越野 明（9期）			
副委員長	金子 哲也（2期）			
委員	広田 雅之（5期）	北島 秀久（9期）	石田 和彦（10期）	
	石村 聖一郎（11期）	戸水 雅之（14期）		

○ 教育委員会

石川工業高等専門学校建築学科在校生と卒業生同窓会との親睦と、在校生の教育の協力を目的とする委員会である。

1. ミニ実務研修の実施への協力

現在在校生の4年生が行っている実務研修を他の学年、期間等を問わず、実社会を体験する場の提供、協力をおこなう。

2. 現場見学会の協力

現在行なっている見学会をより目的意識を持った、授業にそくした現場見学会とし、その場の提供の協力を行なう。

以上、2点を事業予定としています。

なお、上記事業を行なうに当り同窓会生（とくに1期生から10期生で設計事務所、建設会社などに勤務されている方）に協力をお願いしたいと思いますので、その節はよろしく願いいたします。

まず本年度は、ネットワーク作りを重点的に行います。

教育委員会 委員長 8期 水上 勝之

委員長	水上 勝之 (8期)		
副委員長	山内 隆 (4期)		
委員	高井 洋 (8期)	西 智明 (13期)	牧野 具美 (17期)
	北野 和美 (18期)	下浦 十子 (18期)	

○ 広報委員会

本委員会は、会員相互の情報交流を主たる目的とし、本会における情報発信の源の役割を担うものです。事業内容としては、広報の発行と名簿の作成が主たる事業になります。

1. 広報の発行

広報の発行は、年2回を予定しており、各事業委員会のイベントのお知らせ、会員の動向など、多種の分野にわたり情報を提供していくつ予定です。また、会員の皆さんが携わった建物や現場、またその思い出などありましたらお知らせください。

2. 名簿の作成

名簿は、年一回の更新発行になります。内容をさらに充実していく予定です。(たとえば勤務先別索引の付加など) また、内容の充実のために会員のみなさんの協力をお願いいたします。

広報委員会 委員長 7期 三谷 創

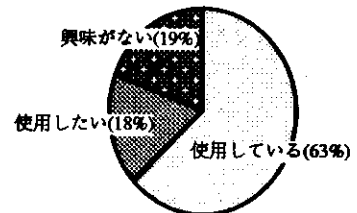
委員長	三谷 創 (7期)		
副委員長	松井 美希 (19期)		
委員	川崎 吉造 (16期)	山岸 学 (16期)	澤田 直子 (19期)

■ コンピュータアンケートについての報告 ■

事業委員会の事業の一つとして、パソコンを通した会員相互の親睦を計る交流の場を作るため、その方向づけとして、建築に携わる皆様に現状のパソコン活用状況のアンケートをいただきました。これは今後の事業展開をしていくうえで、大きく参考になると考えております。皆様のアンケートのご回答、大変ありがたく存じます。アンケートの結果を報告します。

1. 利用意識について

使用している	171
使用したい	48
興味がない	52
合計	271

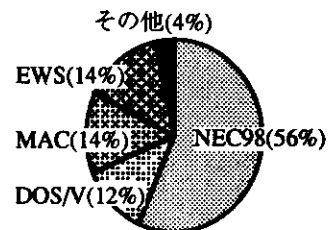


80%の人がコンピュータに対して何らかの関わりをお持ちのようです。データ標本数と各期ごとでのばらつきがあるためはっきりと断定することはできませんが、年齢による違いはみられないようです。

予想していたより多くの人が使っているようです。

2. ハードウェアについて

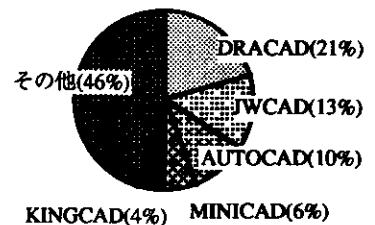
NEC98	168
DOS/V	36
MAC	41
EWS	42
その他	11
合計	298



現時点では、やはり98でしょうか、古いものから新しいものまで種類が多いので当然と言えるでしょうか。EWSとMACが健闘しています。将来はDOS/Vもかなり増えてくるのでは？

3. CADについて

DRACAD	24
JWCAD	15
AUTOCAD	12
MINICAD	7
KINGCAD	5
その他	53
合計	116

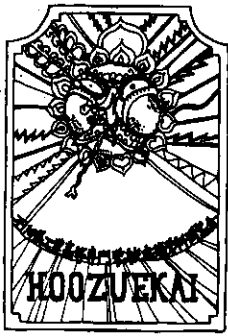


CADは、日経CG (94/10) のアンケートと比べても、同様の傾向を示しています。

98では、DRACAD、MACではMiniCadが定番のようですが、JWCADがフリーソフトの強みで伸びてきているようです。高価なAUTOCADが多いのは大企業が使っているためでしょうか？

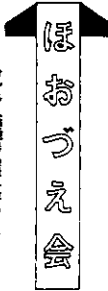
4. その他

ワープロでは一太郎、表計算ではLOTUS1-2-3が断トツのシェアを占めています。

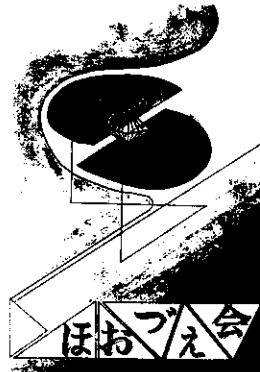


森田 律子(2A)

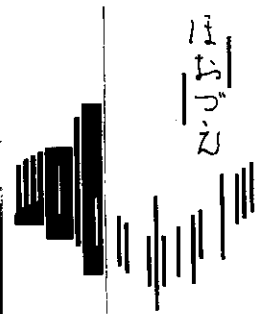
石川工業高等専門学校
建築学科同窓会



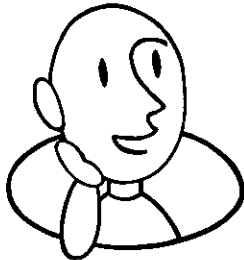
楠木真由美(2A)



中川 朋子(1A)



青木 一実(3A)



澤田 則子(3A)

ほおづえ会



石川工業高等専門学校 建築学科同窓会
1994.7.15発行

能口 絢 (1A)

ほおづえ会



石川工業高等専門学校 建築学科同窓会

山崎智恵子(2A)

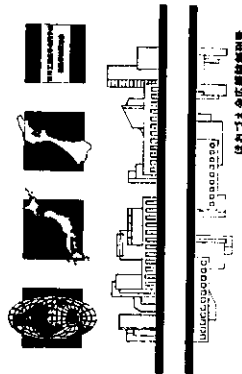


竹中 裕美(1A)

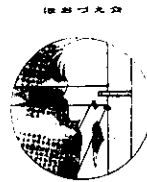


石川工業高等専門学校

中田 愛 (2A)

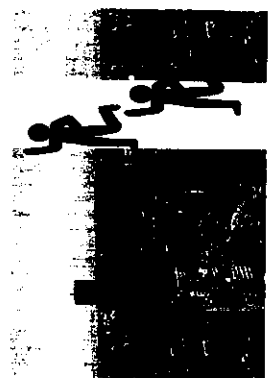


石黒 麻耶(2A)



石川工業高等専門学校 建築学科同窓会

霜鳥加奈美(2A)



久保 綾子(3A)

優秀賞 5名 ロットリングペン
佳作 5名 製図用シャープペン
会長賞 1名 会長おほめのことば

学生の皆さんにとっては紀友祭前後の忙しい時期だとは思いますが、たくさんの応募の中には秀作もあり、関係者一同楽しみながら選考させていただきました。入選作には、ささやかですが上記の賞品をお贈りいたします。また次の機会にもよろしくお願ひします！

安田 和代(3A) 会長賞 阿戸里美(3A)

■ 旅・味・釣りそして建築 ■

同窓会設立そして第一回会報誌発行おめでとうございます。

世の中不況風が吹き続けておりますが、そんな中でも我々建築に携わる者には、作品見学を兼ねた旅は楽しいもの。私の場合それは必ず、家族＋釣竿持参の旅となってしまいます。

そこで今回は、時節柄（建築関係の人はいつも余裕がないようですが）費用の安い公共の宿に的を絞り、奥能登版「旅・味・釣りそして建築」と題したレポートをします。

まず最北にある国民宿舎きのうら荘。金沢からおよそ2時間半のこの宿は、祿剛崎も近く宿そのものが木の浦海中公園に面した景勝の地、県民休暇村としてキャンプ場・テニスコート・海水浴場も備え、釣りは能登で一級の磯。鯛と地酒で、近くの下時国家・上時国家の歴史を語りながら世を明かすものなかなかにあります。

そこからやや南下して、柳田村の国民宿舎やなぎだ荘。ここは何といっても良質の温泉が一番。そして能登産の松茸等キノコ料理のフルコースの他、八目鰻の蒲焼きなど珍しいものもあります。近くには大きな芝生広場を持つ植物公園があり、ここでのお薦めはバーベキュー。能登牛のバーベキューを屋外にてセットで味わえる他、材料持参もOK。電気自動車で巡る園内には移築された民家もあり、抹茶を飲みながら縁側で食べるみたらし団子もグー。古き良き日本の民家を空間と共に味わえます。また、同じ所にある満天星。柳田村が日本で最も星の綺麗な所として売り出したプラネタリウム。更におもしろいのは、プラネタリウム付きのログケビンが3棟ありこれも利用できること。星を眺ながらのロマンティックな夜は如何ですか。最もここは山の中なので海釣りは無理。釣りはヤマメなどの溪流釣り、海で釣るなら東へ20分程の鵜飼に国民宿舎能登路荘があります。この施設は少し古いのですが、部屋の目の前は見附島（軍艦島）。夏は海水浴客で満員になります。宿から15分程北上すると珠洲市の鉢ヶ嶮レジャーゾーンや能登浜屋造りで有名な喜兵衛どん、焼き物に興味のある人には珠洲焼きも楽しめます。近くには我々の仲間同窓会員の作品である珠洲市営畜場もあります。本人の自信作で「まるで美術館のよう」と言う評も。ただし見学に行く際自らが利用者にならぬように。能登の車は結構とばします。一方宿から10分程南下すると、悲しい伝説のある恋路海岸。すぐ近くには内浦町が整備した海釣り桟橋もあります。そしてなお10分程車を走らせると九十九里浜に面した公共の宿・ホテルのときんぶらがあります。ここのお薦めメニューは炉端焼き。民家風座敷の炉端で、さざえの壺焼きから牛ステーキまでセットで味わえます。またここには、平成天皇が、かつて宿泊した宿としても有名。¥2000-アップでその別館も利用できます。夏は3種類のプールも利用でき家族向けの宿といえます。釣りは、眼下の九十九湾よりも小木港の方が良いようです。この近くには縄文間臨温泉があり、象設計集団による温泉にも入れます。

さて今度は、朝市・夕市で有名な輪島。国民宿舎輪島荘は鴨ヶ浦や袖ヶ浦を眼前に見る眺めのいい高台。この食堂から日本海へ沈む夕日を見ればもう最高。食事は申し込めば¥1500-と他の宿よりやや高め。ここからの外浦も夜釣りには一級の磯。但し足場に注意のこと。

続いて夕日といえば何といっても門前のビュー・サンセット。ここは毛綱毅曠氏の設計で、季節感を味わい建築のコンセプトを語り合うには最高の宿。夏は夏なりの、冬は冬なりの、雨の日にはそれを、雪の日にはそれを十分に味わえるおもしろい宿です。料金はやや高め（¥12500～¥13500）ですが、和風フランス料理の夕食と多すぎる朝食のおかずは、それだけでこの料金を納得させてくれます。建物見学と環境と宿泊と露天風呂は儲けもの。ただし、最近増築した部分は少しおとなしくなっています。朝食は8:00からと少し遅めなので、早朝の釣りには前もっておにぎりを頼んでおく必要があります。そしてここから南下すること10分程で国民宿舎つるぎぢ荘。更に20分程で国民宿舎とぎ荘があります。両施設とも、海釣りには便利な宿ですが、少し施設は古いようです。富来と言えば増穂ヶ浦にあるケビン・キャンプ場がお薦めです。さくら貝を拾い、疲れたら世界一長いベンチで昼寝。グルメには、フォアグラや能登牛ステーキも富来の味。能登最後の宿としては、中島町の国民宿舎小牧台を紹介します。この夏は海水浴もできずプールもなくテニスくらいしかできませんが、